

第3学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「きょうみを持ったことをしょうかいしよう」 教材名「せっちゃくざいの今と昔」

2 単元の目標

紹介の中心と事例の関係、全体と中心の関係を理解できる。紹介する目的を意識して中心となる語や文を見付けて要約し、考えたことを共有できる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①紹介の中心と事例の関係、全体と中心の関係を理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア）	①「読むこと」において、紹介する目的を意識して中心となる語や文を見付けて要約し、考えたことを共有している。（C(1)ウ・C(1)カ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

接着剤の今と昔について、興味をもったことを紹介する目的で中心となる語や文を選び、要約する。時代ごとの説明から内容を選び、紹介の中心が変わらないよう必要な内容を選ぶ。学習指導要領のC(1)ウ・C(1)カを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(2)アを、言語活動の中で確かめる。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

紹介したい中心を先に文で決め、関係する説明に印を付ける。要約文を原文と比べ、今と昔、材料や用途などの対応を取り違えていないか確かめる。おおむね満足できる状況は、紹介する目的を意識して中心となる語や文を見付けて要約し、考えたことを共有しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全8時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○全文を読み、接着剤の今と昔で興味をもったことを出す。	学習状況を見て支援する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第2次	2	○段落の内容を短く表し、比較する事柄を整理する。	知①（語句や内容の整理）
	3	○紹介の中心を選び、関係する語句や文を探す。	学習状況を見て支援する。
	4 （本 時）	○残す内容と省く細部を考え、意味が変わらない要約にする。	思①（発言・学習記録）
	5	○要約を原文と照らし、条件や比較の取り違えを直す。	学習状況を見て支援する。
	6	○要約を使って紹介し、友達が関心をもったことを聞く。	学習状況を見て支援する。
	7	○交流を受けて必要な説明を見直す。	学習状況を見て支援する。
第3次	8	○目的に合わせて要約した読み方を振り返る。	態①（学習前後の記録・振り返り）



6 本時の指導 (4/8)

(1) 本時の目標

紹介する目的を意識して中心となる語や文を見付けて要約し、考えたことを共有できる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「紹介したいことが伝わるように短くするなら、どの説明は残す必要ですか。なくすと意味が変わる言葉はどれですか」 【めあて】接着剤の今と昔について、興味をもったことを紹介する目的で中心となる語や文を選び、要約する。 〈予想される児童の反応〉 ・昔と今を比べる言葉を消すと違いが伝わらない。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「紹介したいことが伝わるように短くするなら、どの説明は残す必要ですか。なくすと意味が変わる言葉はどれですか」 自分で言葉や本文の箇所を確認、理由を添えて考えを書く。ノートを示して説明し、聞き手は確かめたところと、まだ確かめたいところを返す。全体では考えが分かれた箇所を取り上げ、何を根拠にしたかを比べる。 〈予想される児童の反応〉 ・昔と今を比べる言葉を消すと違いが伝わらない。 ・面白い細部でも中心と関係が薄ければ省ける。 ・短くしすぎると何の説明か伝わらない。	紹介したい中心を先に文で決め、関係する説明に印を付ける。要約文を原文と比べ、今と昔、材料や用途などの対応を取り違えていないか確かめる。 想定する難しさ：各段落の最初の文だけをつなぐ。重要な条件を消して意味を変える。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 紹介する目的を意識して中心となる語や文を見付けて要約し、考えたことを共有している。(発言と学習記録)
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・短くしすぎると何の説明か伝わらない。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。 次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「紹介したいことが伝わるように短くするなら、どの説明は残す必要ですか。なくすと意味が変わる言葉はどれですか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

